

日本学校教育学会

第21回研究大会

発表要旨集録

平成18年8月5日(土)～6日(日)

会 場 広島大学(東広島キャンパス)

日本学校教育学会第21回研究大会準備委員会

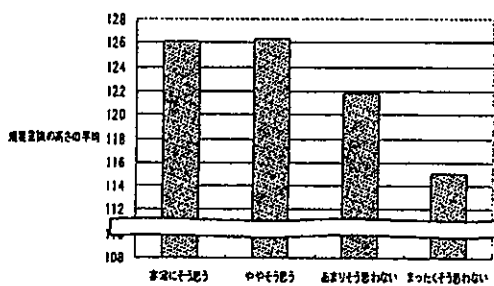
後援 広島大学大学院教育学研究科

1. 問題の所在と研究の目的

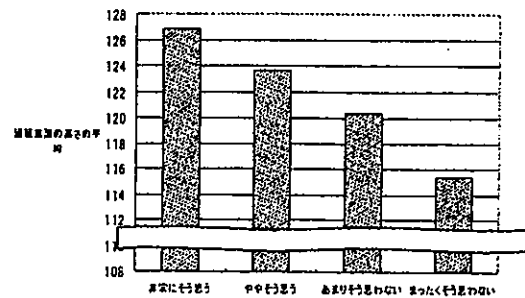
昨今、青少年の問題行動が量的および質的な悪化が同え、高校生を取り巻く人たちの影響と規範意識の関連を知り、道德教育を実施、その効果について検討した。

II. 高校生の規範意識に関するアンケート(研究1)

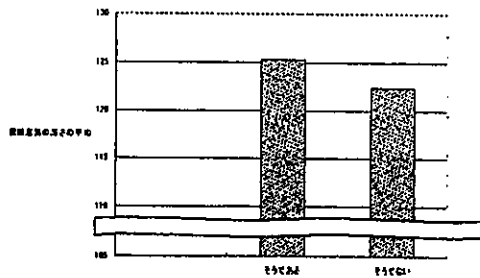
1. 目的 高校生から見た父・母の態度、地域の人々の態度、教師の態度等との関連性について検討
2. 方法 高校3年生1,088名、2005年6月から7月に実施。調査内容①高校生から見た父親の態度②高校生から見た母親の態度③高校生から見た地域の人々の態度④高校生から見た教師の態度⑤自己尊重⑥他者尊重等と規範意識の関連性
3. 結果 父親をはじめ母親、地域の人、教師それぞれが厳しく注意すると認知している者の規範意識は高い傾向があり、自己生命尊重および他者生命尊重の認知が高い者も規範意識は高い傾向。



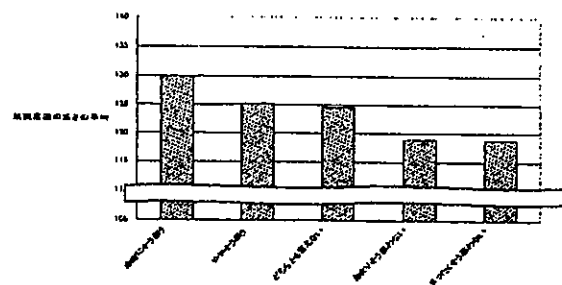
高校生から見た父親の態度の傾向と
規範意識得点の比較



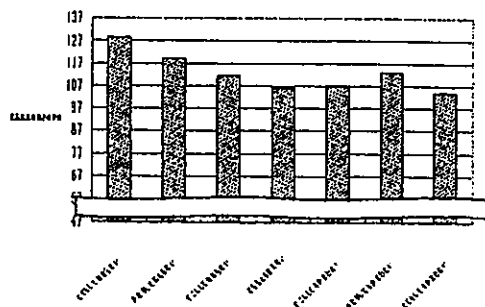
高校生から見た母親の態度の傾向と
規範意識得点の比較



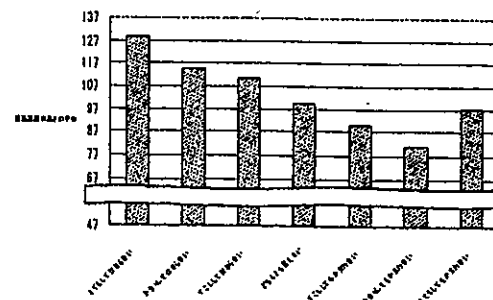
高校生から見た近所の人々の態度の傾向と
規範意識得点の比較



高校生から見た教師の態度の傾向と
規範意識得点の比較



自己生命尊重態度別と規範意識得点の比較

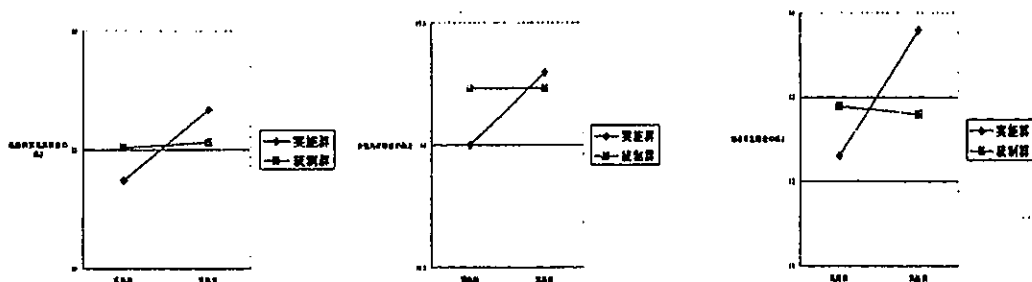


他者生命尊重態度別と規範意識得点の比較

4. 考察 父母、近所の人、教師それぞれの態度が生徒の規範意識形成に影響を与えている。自他の生命を尊く感じている生徒は規範意識が高い。

III. 「生命を尊ぶ心を育てる」教育の試みに関する研究(研究2)

1. 目的 規範意識を高めるため、生命倫理の授業を実施、生き方尺度により計測、効果を検討。
2. 方法 高校3年生を対象とし、実施群31名と統制群63名に授業前後に質問紙調査を実施。
3. 結果 ①能動的実践的態度は数値が上がったが、有意差はなし。②自他共存態度は数値が上がったが、有意差はなし。③他者尊重態度は数値が上がり、有意差もあった。



実施群の授業前と授業後における

能動的実践態度数値の推移

実施群の授業前と授業後における

自他共存態度数値の推移

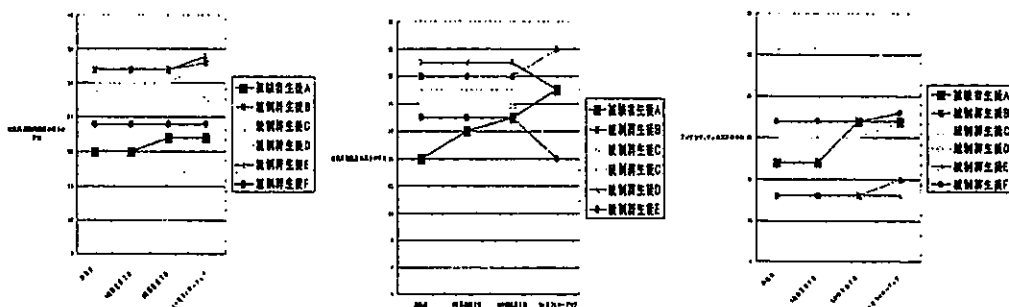
実施群の授業前と授業後における

他者尊重態度数値の推移

4. 考察 「生命の教育」は他者尊重態度を養成していくことに対して有効性が高い可能性が考えられる。

IV. 事例研究(研究3)

1. 目的 第2研究の生き方尺度、フォローアップ調査でも改善が乏しかった生徒を個別指導(交通道德1時限目事故事例、2時限目価値葛藤)を行い、生き方尺度等計測により改善効果を検討。
2. 方法 実施群1名、統制群5名に授業前後に質問紙調査を実施
3. 結果 ①能動的実践的態度は2時限目の実施により数値が上がった。②自他共存態度は1時限目実施により数値が上がった。③アイデンティティは2時限目実施により数値が上がった。



能動的実践的態度の被験者と統制群

自他共存態度の被験者と統制群の比較

アイデンティティの被験者と統制群の比較

4. 考察 具体的事例を中心とする授業は自他共存態度を高め、価値葛藤を伴う授業は能動的実践的態度、アイデンティティを高める可能性が考えられる。

V. 総合的考察

規範意識形成は家庭・学校等、外的な影響をはじめアイデンティティといった内的な影響も強く受けている。規範意識を高めるために集団及び個人介入の両方略で生命に関する道德教育を実施したが、社会的活動に繋げる新しい授業の構築が今後の課題である。